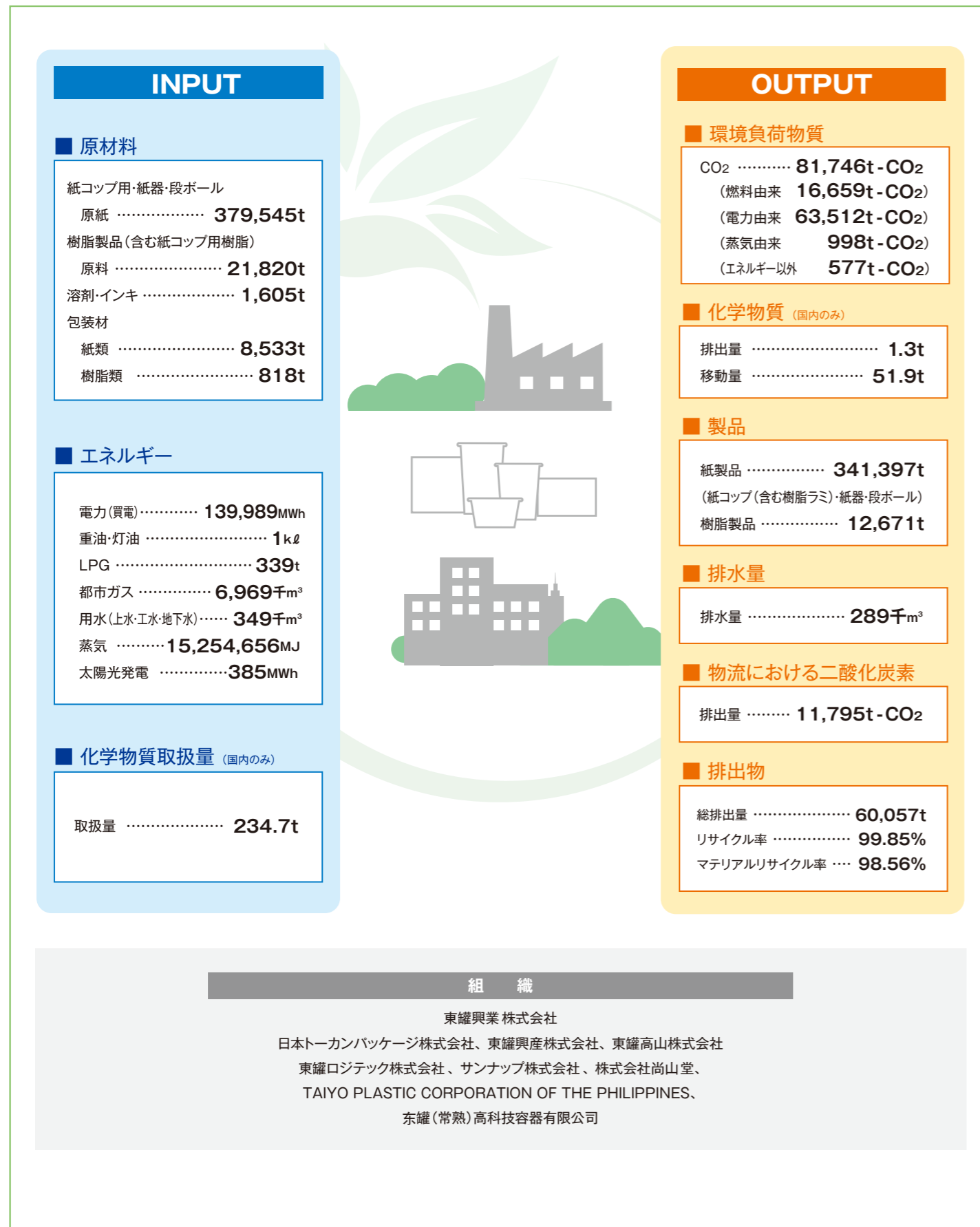


【2023年度 東罐興業グループ 環境パフォーマンスデータ】

東罐興業グループでは全体の物質収支の把握に努め、環境負荷の低減に取り組んでいます。

《環境面からの物質フロー》



東洋製罐グループでは2002年に環境方針を制定し、事業活動を通じて、地球環境の保全と質的改善に積極的に取り組んできました。

2021年には、「低炭素社会」の実現から2050年のカーボンニュートラルを目指した「脱炭素社会」の実現に変更し、2030年度に向けた中長期目標を上方修正しました。

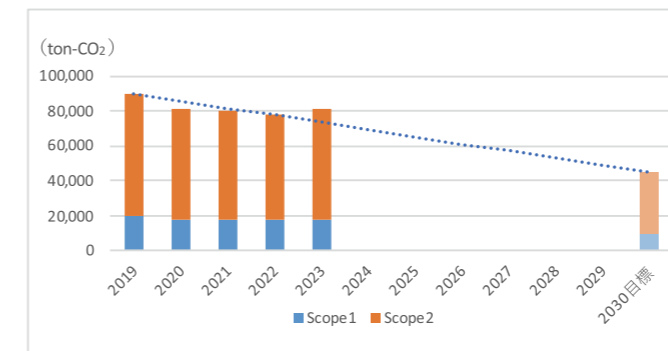
東罐興業グループでもEAP2030実現に向けた具体的な計画と目標の進捗管理に取り組みました。

Eco Action Plan 2030 (EAP2030)

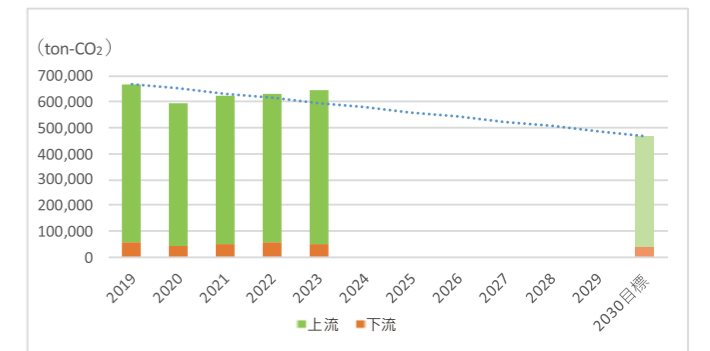
環境ビジョン	2030年度 中期目標
CO ₂ 排出量を大幅に削減する 「脱炭素社会」	①事業活動でのGHG排出量 (Scope1、2) を50%削減 (2019年度比) ②サプライチェーンでのGHG排出量 (Scope3) を30%削減 (2019年度比)
限りある資源を有効に活用する 「資源循環社会」	①枯渇性資源※1の使用量を30%削減 (2013年度比) ②プラスチック製品については化石資源※2の使用量を40%削減 (2013年度比) ・プラスチック製品の軽量化、素材転換により15%削減 (2013年度比) ・再生材・植物由来樹脂の利用率を30%向上 (2013年度比) ③全ての容器包装製品をリサイクル可能またはリユース可能に
自然からの恵みを受け続けることができる 「自然共生社会」	①生物多様性の保全を推進 ・事業活動における取水量を売上高原単位で前年度比1%改善 ・事業拠点の水リスク評価とリスク低減に向けた取り組みを推進 ②外部コミュニケーション活動の推進 ・海洋プラスチック問題解決に向けた対応(散乱防止)と情報公開

※1 枯渇性資源: 自然のプロセスにより、人間などの利用速度以上には補給されない天然資源 ※2 化石資源: 石油・天然ガス等

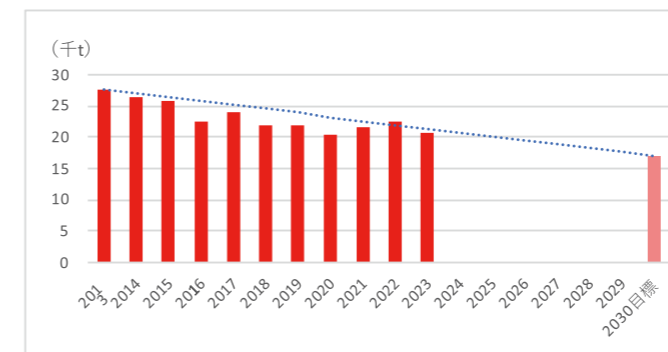
CO₂ 排出量 (Scope1 + 2)



CO₂ 排出量 (Scope 3)



化石資源使用量



プラスチック資源循環促進法に基づきプラスチック使用量の削減に努めていきます